



## 教員紹介

### リハビリテーション学部

#### 山田 和政 YAMADA Kazumasa

職位	教授（学部長）
最終学歴	東京理科大学理学部第Ⅱ部数学科
職歴	自治医科大学附属病院、愛知医療学院（現愛知医療学院短期大学）を経て現職
学位	博士（医学） 名古屋大学
資格（免許）、認定	理学療法士 / 呼吸療法認定士 / 介護支援専門員
担当科目（学部）	リハビリテーション概論／日常生活活動学および実習／地域理学療法学／理学療法管理学概論／理学療法学研究法演習および特論(卒論)
担当科目（大学院）	健康支援学特論／生活活動学特論／生活健康支援学実習Ⅰ／健康支援学特別研究
学生へのメッセージ	4年間という限られた時間の中で、1つでも多くの事を学び、自分自身のものにして下さい。
研究内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の日常生活行動に関する研究</li> <li>・視覚と転倒に関する研究</li> </ul>
研究分野キーワード	健康支援学 / 理学療法学
URL	
著書	<p>過去5年間</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 細田多穂（監修）山田和政・小松泰喜・木村勉（監修）、山田和政、他、高齢者障害理学療法学テキスト、南江堂、1-4、83-92、2017年。</li> <li>2) 竹田徳則、久保金弥、山田和政、太田 進、江西一成、健康で長生きの秘けつ、一粒社、2015年。</li> <li>3) 細田多穂（監修）山田和政、他、中枢神経障害理学療法学テキスト（改訂第2版）、南江堂、231-238、337-339、2014年。</li> <li>4) なごや福祉用具プラザ（編集）山田和政、他、福祉用具ハンドブック、大井企画、15-26、2013年。</li> <li>5) 植松光俊、下野俊哉（編集）山田和政、他、転倒予防のための運動機能向上トレーニングマニュアル、南江堂、2013年。</li> <li>6) 細田多穂（監修）山田和政、他、理学療法概論テキスト、南江堂、77-84、2013年。</li> </ol>

過去 5 年間

- 1) Yuta Kubo, Kento Noritake, Daiki Nakashima, Keisuke Fujii and Kazumasa Yamada, Relationship between nutritional status and phase angle as a noninvasive method to predict malnutrition by sex in older inpatients, Nagoya J. Med. Sci, 83, 31-40, 2021.
- 2) Kazumasa Yamada, Kiminobu Furukawa, Shinya Yokoyama, Daisuke Kimura, Kazuko Watanabe, Eye Movements and Frontal Cerebral Blood Flow during Dual-Task Performance in Young Adults: Basic Data to Identify the Mechanisms Underlying Falling in Older Adults, Int J Neurorehabilitation Eng, 7, 2020.
- 3) 中村浩哉、木村大介、**山田和政**、参加希望者と非参加希望者が混在した院内デイケアにおける非参加希望者の介入効果の検討、健康レクリエーション研究、15、11-173、2019。
- 4) 石川真太郎、木村大介、今井あい子、**山田和政**、作業遂行に影響する要因の予備的検討、健康レクリエーション研究、15、61-64、2019。
- 5) Kubo Y, Hayashi H, Noritake K, Yamada K, Okada S, Effects of depression on the condition of older inpatients with fracture and pre-existing cognitive impairment, Disability and Rehabilitation, 18, 1-5, 2019.
- 6) Daisuke Kimura, Ken Nakatani, Masako Notoya, Aiko Imai, Hiroki Bizen, Minoru Toyama, Kazumasa Yamada, Differences of neglect in peripersonal space and extrapersonal space in a patient with unilateral spatial neglect, Case Reports in Clinical Medicine, 7(10), 513-525, 2018.
- 7) Akira Ochi, Masahisa Fukumoto, Ryosuke Takami, Hiroshi Ohko, Takahiro Hayashi, Kazumasa Yamada, Ankle stretching through weight bearing combined with assisted arm cycling for calf muscle stiffness improvements in patients with stroke: a pilot study, JPTS, 30, 1305-1309, 2018.
- 8) Daisuke Kimura, Taro Ohtoshi, Hiroki Bizen, Aiko Imai, Masako Notoya, Kazumasa Yamada, A study on visual search during the Trail Making Test: Analysis using an eye tracker, Neuroscience and Medicine, 9, 116-122, 2018.
- 9) **山田和政**、浜辺祐介、今井優利、長田理乃、移動能力と生活のひろがりからみた介護予防事業「元気はつらつ教室」の効果、健康レクリエーション研究、14、9-13、2018。
- 10) 越智 亮、福本将久、高見亮介、大古拓史、林 尊弘、**山田和政**、特別制作した受動トルク計測器で得られた下腿三頭筋スティフネスの妥当性と再現性の検証、理学療法科学、33 (4) 、591-596、2018。
- 11) 則竹賢人、**山田和政**、回復期脳卒中者における歩行自立レベルの変化がフレイルサイクル形成因子に及ぼす影響、理学療法科学、33 (3) 、447-451、2018。

- 12) **山田和政**、大竹卓実、木村大介 バランス機能および認知機能が要介護度に与える影響について、理学療法科学、33 (3) 、421-424、2018。
- 13) **山田和政**、千原壮智、木村大介、古川公宣、渡邊和子、ながら歩行時の注意分散機能が視覚情報に与える影響、理学療法科学、33 (1) 、141-144、2018。
- 14) 野口悟志、水上俊亮、横山真也、石川慎太郎、**山田和政**、当院回復期リハビリ病棟と地域包括ケア病棟における取り組みとその効果、全国日本病院協会雑誌、28 (1) 、165-167、2017。
- 15) 伊井公一、山中健行、鈴木一弘、廣瀬健人、神野佑輔、**山田和政**、転倒低リスク高齢者における転倒要因と転倒予防に向けた一考察、理学療法科学、32 (6) 、763-767、2017。
- 16) Taketoshi Sugimura, Mariko Yamamoto, Kazumasa Yamada, Yukio Komatsu, Yumiko Yoshimura, Visual experience regulates the development of long-term synaptic modifications induced by low-frequency stimulation in mouse visual cortex, Neuroscience Research, 120、36-44、2017。
- 17) 石橋雄介、西田宋幹、**山田和政**、精神科病棟入院患者の現状と理学療法の効果、理学療法科学、32 (4) 、509-513、2017。
- 18) 伊井公一、山中健行、鈴木一弘、神野祐輔、**山田和政**、起立一歩行課題における若年者と高齢者の比較、理学療法科学、32 (2) 、221-225、2017。
- 19) 石川真太郎、成田敦士、今井あい子、木村大介、**山田和政**、共分散構造分析を用いた神経心理学的要因が日常生活動作 (ADL) に与える影響に関する検討、岐阜作業療法、19、15-20、2017。
- 20) 千原壮智、木村大介、富山直輝、今井あい子、**山田和政**、認知症高齢者の主観に基づく評価法の有用性の検討、岐阜作業療法、19、21-25、2017。
- 21) 立岩慧士、木村大介、富山直輝、今井あい子、**山田和政**、自律神経バランスと心理・行動障害の関連性についての事例検討、岐阜作業療法、19、26-30、2017。
- 22) **山田和政**、木村大介、古川公宣、渡邊和子、二重課題歩行時の注意分散が予期機構 (視覚情報) に与える影響、健康レクリエーション研究、12、45-49、2016。
- 23) 渡瀬智恵、木村大介、**山田和政**、回復期リハビリテーション病棟における Post-Stroke Depression と日常生活動作との関連性の検討、作業療法、35(2) 、212-216、2016。
- 24) 石川真太郎、木村大介、**山田和政**、認知症高齢者の心身機能と自己実現における関連性の探索的検証、作業療法、35 (1) 、59-66、2016。
- 25) 後藤大輔、土屋佳広、子林卓司、牧田 彩、大竹卓実、横山慎也、阿部友和、**山田和政**、事業所評価加算認定施設における利用者の運動機能、岐阜県理学療法士会学術誌、20、12-14、2016。

## 過去3年間

- 1) 高速大腿挙上トレーニングが高齢者の股関節屈曲の筋力発揮率と転倒回避ステップに与える効果、第57回日本リハビリテーション医学会学術集会（京都府）、2020年8月19-22日、越智 亮、林尊弘、大古拓史、横山真也、**山田和政**。
- 2) 介護・認知症予防の為に介入プログラムの有用性についての検討、第61回日本老年医学会学術集会（仙台市）、2019年6月6-8日、川出義浩、間辺利江、馬場隆幸、植屋節子、田村清美、森 圭子、山下英美、**山田和政**、島田裕之、赤津裕康。
- 3) 生活機能向上連携に対する当法人の取り組み、第40回全国デイ・ケア研究大会2019in 宮崎（宮崎市）、2019年7月12・13日、今井優利、小森一樹、**山田和政**。
- 4) 大学1年次の学業成績に影響を与える因子の検討～本学リハビリテーション学部における分析～、全国リハビリテーション学校協会第32回教育研究大会・教員研修会（春日井市）、2019年8月29・30日、越智 亮、林 尊弘、大古拓史、藤田玲美、松岡文三、林 久恵、江西一成、太田 進、**山田和政**、古川公宣。
- 5) 在宅復帰後の作業遂行とストレスの関連に関する検討－自記式作業遂行指標（SOPI）と心拍変動解析を用いて－、第53回日本作業療法学会、（福岡市）、2019年9月6-8日、石川真太郎、木村大介、今井あい子、**山田和政**。
- 6) 高齢者の二重課題歩行時における眼球の動きに関する一考察、日本転倒予防学会第6回学術集会（新潟市）2019年10月5・6日、横山真也、早矢仕宇理、海光拓磨、宮原雄太、久納健太、古川公宣、木村大介、**山田和政**。
- 7) 右大腿切断後、義足歩行を獲得したものの着脱動作に難渋した高齢症例、第35回岐阜県病院協会医学会（大垣市）、2019年10月27日、白井拳弥、横山真也、中村浩哉、越智亮、**山田和政**。
- 8) 転倒低リスク高齢者の起立歩行動作における転倒リスク評価手段としての有用性、第35回東海北陸理学療法学術大会（富山市）、2019年11月9・10日、伊井公一、山中健行、神野佑輔、中川理浩、**山田和政**。
- 9) 高齢骨折患者における Phase angle を用いた栄養状態の評価、第3回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会、（静岡市）、2019年6月12・13日、窪優太、則竹賢人、中島大貴、藤井啓介、**山田和政**。
- 10) 回復期リハビリテーション病棟における脱水症患者の特性、回復期リハビリテーション病棟協会第33回研究大会 in 舞浜・千葉、千葉、2019.2-21-22、則竹賢人、窪 優太、鈴木優太、**山田和政**。
- 11) 入院超高齢患者の抑うつの有無による栄養状態、体組成、認知機能、日常生活動作能力の比較、回復期リハビリテーション病棟協会第33回研究大会 in 舞浜、千葉、2019.2-21-22、窪 優太、則竹賢人、中島大貴、**山田和政**。

- 12) 院内デイケアの役割～閉じこもり傾向の事例を通して～、第6回慢性期リハビリテーション学会、埼玉、2019.2.15-16、立岩慧士、中村浩哉、木村大介、**山田和政**。
- 13) 回復期リハビリテーション病棟入院患者の栄養指標としての Phase angle の有用性、第34回日本静脈経腸栄養学会学術集会、東京、2019.2.14-15、則竹賢人、**山田和政**。
- 14) 院内デイ参加による BPSD 改善効果を予測する自律神経活動の検討、第18回東海北陸作業療法学会、石川、2018.11.17-18、船戸 類、木村大介、富山直輝、横山信也、立岩慧士、**山田和政**。
- 15) 参加希望有無者が混在した院内デイでの非参加希望者における介入効果の検討、第18回東海北陸作業療法学会、石川、2018.11.17-18、中村浩哉、木村大介、富山直輝、横山信也、立岩慧士、**山田和政**。
- 16) 脳卒中片麻痺患者に対する足関節背屈ストレッチ中の上肢サイクリング付与が麻痺側下腿三頭筋のスティフネスに与える効果、第16回日本神経理学療法学会学術大会、大阪、2018.11.10-11、越智 亮、福本将久、高見亮介、大古拓史、林 尊弘、**山田和政**。
- 17) 調理動作における「切る」動作は脳機能を活性化するか?、第34回岐阜県病院協会医学会、岐阜、2018.10.24、久納健太、木村大介、富山直輝、横山真也、**山田和政**。
- 18) 大腿骨骨幹部骨折術後に膝関節可動域制限が残存した症例に対する動作指導・環境設定、第34回岐阜県病院協会医学会、岐阜、2018.10.24、宮原雄太、横山真也、越智 亮、**山田和政**、呉屋勲。
- 19) 地域在住高齢者に対する運動介入が起立一歩行課題の定常歩行に及ぼす影響、第5回日本予防理学療法学会学術大会 in 福岡、福岡、2018.10.20-21、伊井公一、鈴木一弘、山中健行、神野佑輔、**山田和政**。
- 20) 高齢者の眼球運動と前頭葉血流量からみた二重課題時の転倒発生機序に関する一考察、日本転倒予防学会第5回学術集会、静岡、2018.10.6-7、横山真也、早矢仕宇理、海光拓磨、宮原雄太、古川公宣、木村大介、**山田和政**。
- 21) 院内デイケア参加の効果を自律神経活動から考える、リハビリテーション・ケア合同研究大会米子2018、鳥取、2018.10.3-4、立岩慧士、木村大介、横山真也、中村浩哉、**山田和政**。
- 22) 当施設通所リハビリテーション利用者における利用1年後の生活機能について、第4回健康レクリエーション学会、愛知、2018.9.16、今井優利、石川真太郎、水上俊亮、越智 亮、**山田和政**。
- 23) 地域在住高齢者の転倒リスクにおけるゲーム式認知トレーニング効果、第4回健康レクリエーション学会、愛知、2018.9.16、佐藤克成、横幕拓司、二村紗季、伊藤 雅、松原浩亮、**山田和政**、渡邊和子。

	<p>24) トイレ移乗動作と模倣動作時の前頭葉機能の比較、第 22 回岐阜県作業療法士学会、岐阜、2018.5.27、海光拓磨、木村大介、<b>山田和政</b>。</p> <p>25) 被殻出血により CRPS を呈した患者の自律神経活動に着目した痛みの評価、第 22 回岐阜県作業療法士学会、岐阜、2018.5.27、山田洋樹、木村大介、<b>山田和政</b>。</p> <p>26) 自動車運転画像を見たときの眼球運動および脳血流量の違いー健常者と入院患者の Near-infrared spectroscopy(NIRS)と Eye-camera を用いた分析ー、第 22 回岐阜県作業療法士学会、岐阜、2018.5.27、久納健太、木村大介、千原壮智、<b>山田和政</b>。</p> <p>27) 立岩慧土、中村浩哉、木村大介、<b>山田和政</b>、院内デイケアの役割ー閉じこもり傾向の事例を通してー、第 5 回慢性期リハビリテーション学会（2018 年 2 月 26・27 日、神奈川）</p> <p>28) 中嶋啓太、水上俊亮、横山真也、木村大介、<b>山田和政</b>、実績指数の予測因子としての入棟 2 週間後の運動項目 FIM の有用性、回復期リハビリテーション病棟協会第 31 回研究大会 in 岩手（2018 年 2 月 2・3 日、岩手）</p>
<p>社会的活動 （公開講座・講演・ 国際交流など）</p>	
<p>その他</p>	<p>1) 第 32 回東海北陸理学療法学会大会（2016 年 10 月 22・23 日：岐阜）にて「転倒低リスク高齢者における「起立ー歩行課題」からみた転倒予防策の検討」と題して研究成果発表し、学会大会長賞を受賞する。</p> <p>2) 第 30 回岐阜県病院協会医学会（2014 年 10 月 26 日：岐阜）にて「高齢者の自立に向けた取り組み、リハビリ特化型デイサービス G-star 長良からの発信」と題して研究成果発表し、優秀演題学会賞を受賞する。</p> <p>3) 第 28 回岐阜県老健大会（2013 年 10 月 20 日：岐阜）にて「当法人各施設間で連携を図り、在宅復帰に至った症例」と題して研究成果発表し、優秀演題賞を受賞する。</p>